

## 第6学年 道徳科学習指導案

平成29年6月20日（火）第5校時

- 1 主題名 誠実に生きる 内容項目 [A 正直、誠実]
- 2 ねらい どのような状態にあっても、一時の衝動に負けないで、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする態度を育てる。  
教材名 「のりづけされた詩」（出典：「みんなのどうとく 6年」学研）

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容について

小学校5学年及び6学年における[A 正直 誠実]の指導の観点は、「誠実に、明るい心で生活すること。」である。

「誠実」は、辞書を引くと「真心があり、真面目なこと」という意味である。何事にも誠心誠意で、一生懸命な人物像が想像される。そして、「誠」は「言を成す」と書く。自らの言ったことを実行し、実り多いものとするという意味である。言行一致している人物は周りから信頼される。また、自らもこのことを理解しており、信頼されようと努力する。しかし、人は時に失敗や過ちから、その場しのぎの行動をしたり、回避しようとするごまかしをしてしまうことがある。このことは、相手からの信頼を失うだけではなく、自分自身に後悔の念や葛藤が生じる。これらを乗り越えようとするところこそが、自分に対する真面目さであり、よき心に従おうとする真心である。そして、伸び伸びと生活しようという明るい心へとつながっていく。これらが「誠実に生きる」ことであると考えられる。授業では、葛藤し悩む主人公の気持ちに共感させ、主人公の気持ちの変化を考させることで、「誠実に生きる」とはどういうことか、自分の良心に偽りなく行動することが重要なことを児童と共に考えていきたい。そして、自分の心と行為が一致した時、すがすがしさや満足感を感じられること、明るい心で生活できることにも気づかせ、明るい心が自身に自信をもたせ、自己の向上へとつながっていくことも理解させたい。

#### (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、話を素直に受け止め、他人の発言や行動のよさを認めたり、真似しようと努力したりすることができる。一方で、自分自身や学級のために行った方がよいことに対して、勇気が出ずに一歩踏み出せなかったり、他人任せにしたり、自分の都合のよいように解釈したりする傾向がある。

本時の主題となる「誠実」という価値については、5年生での「手品師」の学習を通して、相手の気持ちを考えることや真心をこめて行うことの大切さについて学んできた。誠実な行いをして生活していると思っている児童も多い。しかし、場面によっては心の弱さからごまかしをしたり、よくないことと知りつつも周りに流されたりしてしまうこともある。このような行いは、決して心地よいものではなく、後ろめたい気持ちが募り、自信や誇りを失うことにつながる。

本時の学習を通して、ごまかしをしてしまう人間の弱い心に共感しつつも、その過ちを正し、自分が納得してよい方向へと進んでいきたいという意欲を高めたい。そして、自分自身の心と行動を一致させることで人としてよりよく生きていこうと思える心を耕したい。

#### (3) 教材の特質や活用方法について

主人公の和枝のクラスでは、学級文集をつくることになった。詩を書くことが得意な和枝は、仲良しの光子と詩をのせる約束をした。しかし、和枝は詩がなかなか思いつかず、さらに光子が先に書き上げたことを聞いて、不安になる。そんな時、自分の書こうとしている内容にぴったり合う詩を見つけ、焦りからその詩を写してしまう。そのことで、和枝は胸がしめつけられる思いをし、悩むが、先生に打ち明ける決心をする。ゆれ動く和枝の思いや和枝の気持ちの変化を考え、和枝をつき動かした思いはどんなものなのか、誠実に生きるとはどういうことかについて考えを深めさせたい。そして、誠実な行いによって、人は明るくすがすがしい気持ちで生活することができることへとつなげたい。

展開では、主に次の点を中心に話し合うことにする。

- ①和枝は何に悩んでいるのか。
- ②本当のことを告白した和枝をつき動かしたものはなにか。
- ③先生に本当のことを伝えた和枝は、どんな気持ちか。

本時においては、導入から終末まで「『誠実に生きる』ということとはどんなことか」とテーマを一貫していく。導入で、現時点での個々の思いや価値観を確認する。学習が深まった終末で、再度同じテーマで個々の思いを書かせることで、一授業を通した価値観の変容を見取りたい。

指導にあたっては、板書の工夫として「話す」「話さない」ことを軸とした心と行為の座標軸を取り入れる。横軸を「話す」「話さない」の行為の軸、縦軸を心の軸とする。心の軸は、話すべきだ、話した方がよい、話したいを含む「話す」が上方向で、話すべきでない、話さない方がよい、話したくないを含む「話さない」が下方向への軸である。この軸を用いることで、和枝が迷っている位置が確認できる。そして、和枝が心も行為も話す位置へと高まった原動力は何なのかについて話し合いを深めたい。また、和枝だけでなく、児童一人一人が真実を話すことに対してどのように考えているのかを視覚的に分かりやすくすることができる。自身がどの位置にいるのか、心と行為を一致させるためにどんな力が自分にとっての原動力となるのか考えさせていきたい。

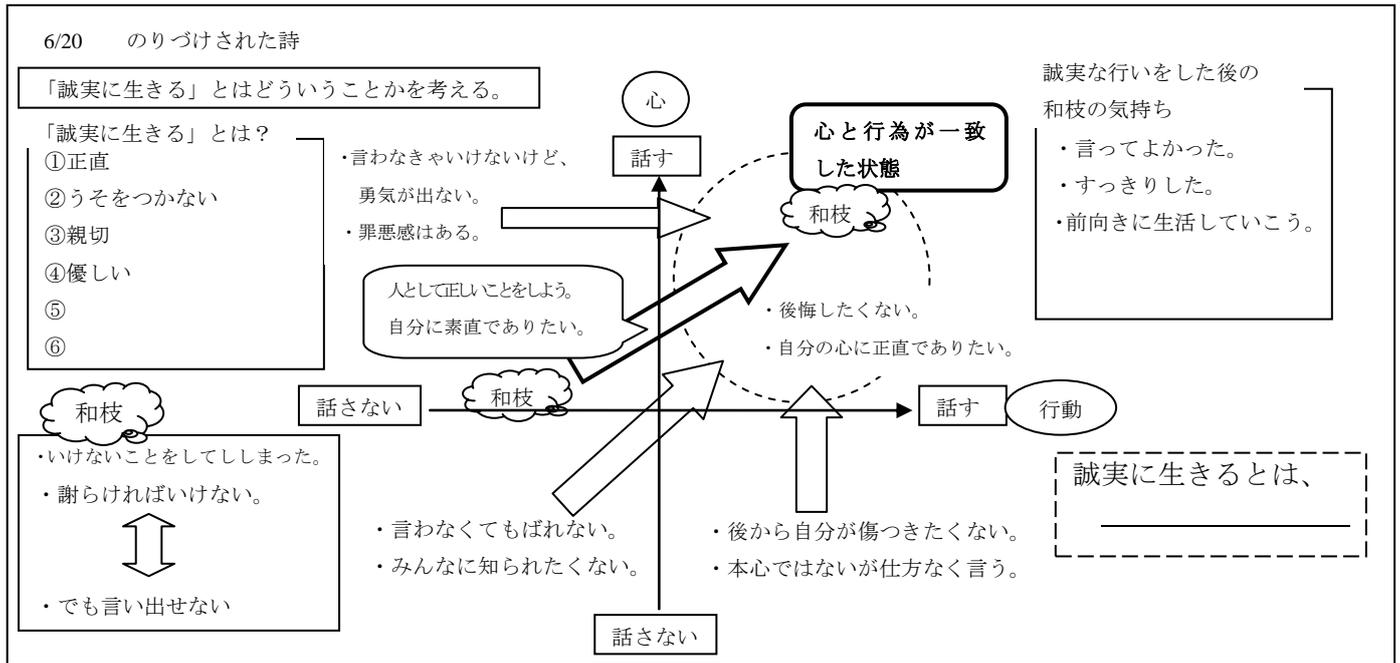
また、話し合いの工夫として、展開の前半での和枝や自分自身の座標軸での位置について、小グループで話し合わせる。そうすることで、自分だったらどうなのか、どうしてその位置なのかを考えさせたい。そして、展開の後半での和枝の変化について全体で討議させていきたい。この流れを通して、価値理解と共に他者理解が深まると考える。

#### 4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ★評価の観点	時間
導入	1 「『誠実』に生きる」とはどういうことか」のアンケート結果を示す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>正直に生活すること。</li> <li>うそをつかない。</li> <li>親切にすること。</li> <li>優しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前にアンケートをとった「誠実」に対する現時点での考え方・捉え方を提示する。</li> <li>後の変容を見取ることには生かすとともに、ねらいとする価値について問題意識をもてるようにする。</li> </ul>	5分
	2 本時のめあてを確認する。	めあて：「誠実に生きる」とはどういうことか考えよう。		
展開	3 教材「のりづけされた詩」を読み、主人公のわたしが行った親切について話し合う。	登場人物：和枝、光子、先生 条件・状況：学級会で学級文集を作ることが決まった。 主人公の和枝は仲良しの光子と詩をのせる約束をした。 提出日が迫る中、和枝は思うような詩を作ることができない。		35分
	(1)前半(～P.56 L.7) 和枝は何に悩んでいるのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>他人の詩をだまって使ってしまった。</li> <li>いけないことだと分かっている。</li> <li>謝らなければいけないけど・・・</li> <li>怖くて、言い出すことができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>光子から「詩が上手」と期待されていたことへ応えたいが、詩が思いつかない焦りから他人の詩を写してしまった和枝の心の弱さをとらえさせる。</li> <li>いけないことだと知りつつも、言い出すことができずに、ゆれ動く和枝の心にも共感させる。</li> </ul>	

	<p>&lt;補助発問&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和枝は本当のことを話すか話さないかで悩んでいるのかな</li> <li>・自分が和枝だったら、どう思いますか。</li> </ul> <p>(2)後半(P.56 L.8～)</p> <p>◎和枝をつき動かしただものはなんだったのだろうか。</p> <p>&lt;補助発問&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな思いが力になれば、自分の位置から和枝の位置へ行くことができるか。</li> </ul> <p>(3)誠実な行いをした後の和枝は、どのような気持ちか？</p> <p>&lt;補助発問&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誠実な行いは人をどんな気持ちにさせるのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話した方がいいと分かっているけど、話せない。</li> <li>・勇気が出なくて話せないのではないか。</li> <li>・本当のことを話した時にみんなに知られ信用を失うのが怖くて、話せない。</li> <li>・本心は言いたくないが、ばれた時に怒られたくないから話す。</li> <li>・過ちを認め、改めたいという気持ち。</li> <li>・人として正しいことをしようという気持ち。</li> <li>・本当のことを言わずにいたら、この先後悔する。</li> <li>・自分の気持ちに素直でありたい。</li> <li>・勇気を出して、言おうという気持ち。</li> <li>・本当のことが言えて、すっきりした。</li> <li>・晴れ晴れとした気持ちで過ごせる。</li> <li>・明るく生活できる。</li> <li>・前向きな気持ちにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す」「話さない」の心と行為の関係を座標軸で表し、和枝は今の位置にいるのか、自分が和枝の立場だったらどの位置か確認する。</li> <li>・「話す」「話さない」理由について考えさせる。話し合いをすることで、一人一人が自分の考えを発言できるようにしたい。また、考えを学級全体で共有する。</li> <li>・教材の後半を読む。</li> <li>・和枝は先生に本当のことを打ち明けたことを確認する。</li> <li>・座標軸上で、和枝の変化を表し、よさに向かう和枝の心と行為が一致したことを捉える。</li> <li>・個々の座標軸での位置から、心も行為も「話す」位置へ高めるにはどんな思いが原動力になるのか考えさせる。そこで、心と行為を一致させることは難しいことであるが、人として尊い行いであることに気づかせたい。</li> <li>・たとえ過ちを犯したとしても、その後の自分の行いによって「誠実に生きる」ことへつながることを押さえる。</li> <li>・自分にとって誠実になることの大切さやそうすることでよりよい自分として自信をもって生活していくことができることへと繋げていきたい。</li> </ul>	
<p>終末</p>	<p>4 本時のテーマ「『誠実に生きる』とはどういうことか」に戻り、誠実な生き方についての自分の考えを書き、ふり返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「誠実に生きる」とは、自分に正直になって、正しいと思ったことを行う生き方。</li> <li>・「誠実に生きる」ことで、明るく前向きな気持ちで生きていくことができる。</li> <li>・ごまかしをせずに、自分自身に誠実でありたい。</li> <li>・何事にも誠実に取り組むことで、すがすがしい気持ちで生活していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のテーマについて、学習が深まった現段階での考えをノートに書かせ、導入時の自分の考えとの違いを知る。テーマについての自身の価値観の深化を感じさせる。</li> <li>・児童一人一人が自己を見つめ、これからどのように生活していきたいか考えを深めさせたい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★学習テーマをもとに、これまでの自己を見つめ、誠実に生きることについて考えることができたか。 (ノートの記述・発言)</p> </div>	<p>5分</p>

## 5 板書計画



## 6 評価の観点

### <児童の学習状況の評価>

- ・学習テーマをもとに、これまでの自己を見つめ、誠実に生きることについて考えることができたか。
- ・友だちの考えをしっかりと聞いたり、グループでの話し合いをしたりすることで、よい方向へと向かう心と行為の一致について考えることができたか。
- ・考えを相手に伝えたり、思いをノートに書いたりすることで、自己の生き方について考えを深めることができたか。

### <児童の道徳性に関わる成長の様子>

- ・誠実に生きることについて理解し、授業前と授業後での親切に対する考えが深まったか。

## 7 他の教育活動との関連

- ・毎日の帰りの会で行う「心の花の発表」では、毎日友だちのよいところを発表し称賛し合うことで、友だちのよさを認め、よりよいクラスにしていこうという意欲を高める。
- ・月に一度の「ふれあい活動」の時間には、異学年との縦割り活動を通して最高学年としての自分の役割を自覚し、積極的に関わろうとする態度を育てる。